

平成27年産農畜産物に係る 十勝管内農協取扱高について〔概算〕

〔平成27年12月24日〕
十勝地区農業協同組合長会
十勝農業協同組合連合会
北海道十勝総合振興局

1 考え方

本集計は、平成27年産農畜産物に係る十勝管内24農業協同組合の取扱見込額について、農協ごとに試算した概算値の集計であり、商系取扱高（農協以外の一般商社等取扱分）は含んでいないことから、十勝管内農業産出額とは異なる。

取扱高には、直接支払交付金、生乳生産者補給金を含むが、産地交付金、農業共済金支払額は含まない。

2 平成27年の概要

農協取扱高は、耕種部門、畜産部門
双方が増収したことにより
3, 233億円（前年比116%）

◇耕種部門取扱高◇1,409億円（対前年比115%〔構成比43.6%〕）

本年は、融雪が早く、春作業が順調に進んだ。その後、少雨による影響が懸念された時期もあったが、総じて好天に恵まれ、生育もおおむね順調に推移したことから、収量を確保。

- 小麦は、平年に比べ収量が大きく上回るとともに、製品歩留まりも良かったことなどから、前年比55%増。
- 豆類は、大豆、いんげんが前年を上回る作付面積、収量を確保した一方、小豆の作付面積が下回るとともに価格低下の影響から、前年比6%減。
- ばれいしょは、作付面積が前年を下回ったことなどから、前年比1%減。
- てんさいは、作付面積が前年を上回り、また、夏以降の気温が順調に低下し、糖度も前年より上昇したことから、前年比11%増。
- 野菜は、多くの品目が前年を上回る作柄となったことや、市況が堅調に推移したことから、前年比10%増。

◇畜産部門取扱高◇1,824億円（対前年比116%〔構成比56.4%〕）

- 酪農は、1年を通して前年を上回る生乳生産を維持し、乳価の上昇などから、前年比11%増。
- 肉用牛は、家畜市場での取引頭数の増加とともに、枝肉価格や素牛取引価格が堅調に推移したことから、前年比27%増。

3 取扱高集計結果

（単位：億円、%）

区分	平成27年(概算値)		平成26年(概算値)		前年対比		
	取扱高	構成比	取扱高	構成比	増減額	前年比	
耕種	麦類	408	12.6	263	9.4	145	155
	雑穀・豆類	183	5.7	194	6.9	△11	94
	ばれいしょ	265	8.2	268	9.6	△3	99
	てんさい	311	9.6	280	10.0	31	111
	野菜	235	7.3	213	7.6	22	110
	その他	7	0.2	7	0.3	0	100
	小計	1,409	43.6	1,225	43.8	184	115
畜産	酪農	1,148	35.5	1,036	37.0	112	111
	生乳	988	30.6	911	32.6	77	108
	肉用牛	634	19.6	499	14.8	135	127
	豚・鶏	17	0.5	16	0.6	1	106
	その他	25	0.8	22	0.8	3	114
小計	1,824	56.4	1,573	56.2	251	116	
総合計	3,233	100.0	2,798	100.0	435	116	

※取扱高は税抜き